

COPY

**Partial Translation of "Biseibutsugaku Jiten"****Fungistatic Action= Fungistasis**

**Fungistasis=** Fungistatic Action: Action formula of antimicrobial agents against organisms in vitro is roughly divided into two basic types, i.e. microbiostatic action and microbiocidal action. The former represents the antimicrobial action wherein an agent inhibits microbial growth reversibly, and when the agent is removed from culture medium or inactivated, the microorganism grows again. According to the subject microorganism which is bacterium or fungus, the microbiostatic action of the agent is called bacteriostasis or fungistasis, respectively.

# 微生物学辞典

日本微生物学協会 編

技報堂出版株式会社

になった現在では、古典的生殖細胞系統説も体細胞変異説も否定された。すなわち生殖細胞のゲノムには、多様なアミノ酸配列をコードするDNA セグメント群(V, D, T)が存在しているが、この細胞が分化して抗体産生リンパ球になる時に、DNA セグメントの組換え\*が起こって、抗体蛋白分子変化域の情報をもつDNA がつくられ、それによって多様な抗体を産生する細胞がそれぞれ生じることが判明した。〔川上(正)〕

**生殖的隔離** reproductive isolation ただ単に分布域が隔たっているために2種の個体群間で雑種が形成されないことと、同じ分布域内に生息する2種の生物学的性質の相違から雑種が形成されないこととは、進化生物学的に本質的な相違がある。前者を地理的隔離、後者を生殖的隔離と呼ぶ。生殖および個体発生に關与する種固有の遺伝的制御系の相違から2種の個体群間で遺伝子交流が阻止されたり制限されたりすることを意味するだけでなく、広義には生態的場(niche)および生活方法の種間差によるものをも生殖的隔離に含める(⇒隔離機構)。種概念(species concept)の根底をなす生殖的隔離を狭義に解する場合の種は遺伝学的種(genetic species)、広義に解する場合は生物学的種(biological species)とも呼ばれる。〔市村〕

**生殖的隔離機構** reproductive isolating mechanism = 隔離機構

**生殖母体** gamont = ガモン

**静真菌作用** fungistatic action = 静真菌〔性〕  
**静真菌〔性〕** fungistasis = 静真菌作用 抗菌物質(antimicrobial agents)が *in vitro* で生物集団に及ぼす作用形式は、静菌作用(microbiostatic action)と殺菌作用(microbiocidal action)の2つの基本型に大別される。前者は、ある薬剤が微生物の発育を可逆的に阻止し、その薬剤が培地から除去されるかまたは不活化されると再び微生物が発育し始めるような抗菌作用(antimicrobial action)を表わすのに用いられる。特に対象となる微生物が細菌か真菌かによってこの静菌作用をもつある薬剤の性質は、それぞれ静細菌性(bacteriostasis)、および静真菌性(fungistasis)と呼ばれる。一方、微生物の発育を不可逆的に阻止する作用、すなわち微生物を死滅させる作用が殺菌作用である。静真菌作用

をもつ薬剤は静真菌剤(fungistatic)と呼ばれ、殺真菌作用(fungicidal action)をもつ殺真菌剤(fungicide)と区別される。いずれのタイプの抗真菌活性を示すかは、その薬剤の分子レベルまたは細胞レベルでの作用機序に依存する。

〔山口(英)〕

**成人T細胞白血病ウイルス** adult T-cell leukemia virus = ヒトT細胞白血病ウイルス  
**清水性原生動物** katharobic protozoa 酸素が豊富で比較的有機物の少ない山地の溪流や湖など清澄な水域に生息する原生動物をいい、種類は少ない。植物性鞭毛虫類には幾つかの種類がいるが、肉質虫類および繊毛虫類では極めて少ない。肉質虫類では *Euglypha*、繊毛虫類では *Strobilidium*, *Halteria*, *Spathidium*, *Prorodon* などのある種のものがこれに属する。

〔須藤(隆)〕

**精製ツベルクリン蛋白〔質〕** purified protein derivative ; PPD → ツベルクリン

**性線毛** sex pilus(pl. -li) → 接合線毛

**生息場所** habitat 生物の生活環境を生態学的に見た時の“すみ場”のこと。例えば、湖沼や海の表面、水底、石の下、土壌表面、土壌中など。

〔有賀〕

**生存曲線** survival curve = 生残曲線 微生物の集団に放射線、化学物質、熱などを作用させ、寒天培地上などで生存個体数を測定し、作用させない場合との相対的生存比を算出して図示した曲線をいう。一般に横軸に作用原の量(放射線は線量、化学物質は濃度、熱は処理時間)を、縦軸に生存比をとり、生存比は対数目盛とすることが多い。その理由は、37%生存線量の項を参照。化学物質の場合、濃度を一定にして作用時間を変えることは、短時間で作用が変化する物質には適用できないことに留意する必要がある。生存曲線の形から、その作用原の作用機構や標的物質をある程度推定することができる。例えば、片対数グラフで直線となる場合(曲線の直線部分を含む)は、少数の標的に all or none 型の損傷が起こっており、DNA が標的である可能性が高い。またある投与量までは全く効果がなく、ある限度以上で急に効果が高まる場合には、多数の標的のすべてが損傷を受けるまで生存可能な機構、例えば酵素分子や細胞

微生物学辞典

定価15,450円(本体15,000円・税450円)

1989年 8月23日 1版1刷 発行◎

ISBN4-7655-0020-9 C3045

検印廃止

編者 日本微生物学協会  
会長 秦 藤 樹

発行者 長 祥 隆

発行所 技報堂出版株式会社

日本書籍出版協会会員  
自然科学書協会会員  
工学書協会会員  
土木・建築書協会会員

〒107 東京都港区赤坂1-11-41 第一興和ビル  
電話 営業(03)(585) 0 1 6 6  
編集(03)(584) 4 7 8 4 - 6  
振替口座 東京 4 - 1 0 番

落丁・乱丁はお取替えいたします。

印刷 東京印書館 製本 鈴木製本

本書の内容を無断で複写複製(コピー)すると法律で罰せられることがあります。